

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：若手研究(B)  
 研究期間：2005 年度～2008 年度  
 課題番号：17791670  
 研究課題名（和文）：がんを併発した精神疾患患者のケアを困難にさせている複合要因の解明  
 研究課題名（英文）：Composite Factors That Hinders Cares  
 of Psychiatric Patients with Comorbid Cancer  
 研究代表者：美濃 由紀子 (MINO YUKIKO)  
 国立精神・神経センター精神保健研究所・司法精神医学研究部・研究員  
 研究者番号：50318002

## 研究成果の概要：

本研究の目的は、がんを併発した精神疾患患者のケアを困難にさせている複合要因を、5つの病期にわけて、詳細に分析し、解明することにより、適切な治療と看護を実現するためには何が必要かを明らかにする。また、各病期に沿った時間的な経過と、阻害・促進要因との絡みをフィードバック理論に基づき解明することで、実態に沿った状況の把握と今後起こりうる阻害要因に対する予測をし、それに対する対策をたてることで、困難な臨床状況から望ましい状況に導くための効率的なケアを実践し検証する。

「精神疾患患者の身体合併症(特にがん)ケア」の困難事例について、①文献検討、②個人インタビュー調査、③フォーカスグループインタビュー調査、④フィールドワーク、⑤事例検討会を行い、質的・帰納的に分析を行った。

その結果、精神科病院では、がんを併発した精神疾患患者の早期発見の難しさ、激しく拒否をする患者に対する身体的介入(ケアや処置)、インフォームドコンセントなどに、特に困難感を抱いていることが明らかになった。また、「がんの発見・がんの告知・がんの治療・がんの再発の発見を含む治療後の療養期・がんの末期」というがんの5つの病期に応じた精神的・身体的ケアの必要性と阻害要因を予測して回避しつつ、促進要因に導くことを意識した取り組みの必要性が示唆された。今後の課題としては、「がんを併発した精神疾患患者のケア」を含む、「身体合併症治療やケア」のための施設を急速に整備する必要があることが示唆された。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	1000000	0	1000000
2006 年度	1000000	0	1000000
2007 年度	700000	0	700000
2008 年度	500000	0	500000
年度			
総計	3200000	0	3200000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域／老年看護学

キーワード：(1) 看護学 (2) がん (3) 精神科 (4) 身体合併症 (5) 医療/福祉 (6) 身体ケア技術 (7) 精神疾患患者 (8) 統合失調症

## 1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の背景としては、精神疾患

患者が身体疾患を併発した場合、その早期発見や適切な治療が非常に困難であると言わ

れており、特に、日本の主要な精神疾患患者入院施設である単科精神科病院では、長期入院患者が多く、高齢化も進んでいる。身体合併症のケアは今後の重要課題であると言われていたものの、これまで望ましいシステムや適切な方法についての十分な検討がなされてこなかった。中でも、がんを併発した精神疾患患者への治療や看護については、非常に研究が立ち後れている状況であった。この問題に関する日本の先行研究の内容は、精神疾患患者の合併症治療全般に関連する包括的な問題点の指摘や合併症ケア方法の提案、合併症患者の事例報告や検討などに限られており、がんを併発した精神疾患患者の治療と看護に焦点を当て、綿密な現状分析の基で考察を加えた文献は見当たらなかった。また、海外においては、精神科医療システムなどの違いから、日本のように大勢の長期入院患者を単科精神科病院で抱えていないという現状から、類似する研究は少なく、参考となる先行研究は稀少で、がん疾患と精神疾患に焦点をあてた報告としては、リエゾン精神看護に関するものに集中していた。本研究代表者による先行研究である「がんを併発した精神疾患患者の治療と看護に影響を及ぼす要因に関する研究」が、この問題に対して最も近い先行研究であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、がんを併発した精神疾患患者のケアを困難にさせている複合要因を、5つの病期にわけて、詳細に分析し、解明することにより、適切な治療と看護を実現するためには何が必要かを明らかにする。また、各病期に沿った時間的な経過と、阻害・促進要因との絡みをフィードバック理論に基づき解明することで、実態に沿った状況の把握と今後起こりうる阻害要因に対する予測をし、それに対する対策をたてることで、困難な臨床状況から望ましい状況に導くための効率的なケアを実践し検証する。

## 3. 研究の方法

調査方法は、①～⑤の手順で行った。がんを併発した精神疾患患者のケアを困難にさせている複合要因が、精神疾患患者の身体合併症ケアの中で、どのような位置を占めているのかを明確にするために①文献検討を行った。調査研究としては、身体合併症(特にがん)ケアについて困難を感じたケースについて②個人インタビュー調査、③フォーカスグループインタビュー調査、④フィールドワーク、⑤事例検討会を行い、質的・帰納的に分析を行った。

## 4. 研究成果

①～⑤の調査・検討の結果、精神科病院で

は、がんを併発した精神疾患患者の早期発見の難しさ、激しく拒否をする患者に対する身体的介入(ケアや処置)、インフォームドコンセントなどに、特に困難を感じていることが明らかになった。また、「がんの発見・がんの告知・がんの治療・がんの再発の発見を含む治療後の療養期・がんの末期」というがんの5つの病期に応じた精神的・身体的ケアの必要性と阻害要因を予測して回避しつつ、促進要因に導くことを意識した取り組みの必要性が示唆された。精神科の看護師は、精神科であっても身体的なケアが必要なケースに対しては、適切な治療や処置を提供したいと望む一方で、身体ケア技術への苦手意識や不安が残存しており、そのことに加えて、治療システムや設備の不備などから、思うようなケアが行えず、無力感や不全感を抱いていた。「身体合併症治療やケア」には、改善すべき課題が多く含まれており、「がんを併発した精神疾患患者のケア」を含む、身体合併症のための施設を急速に整備する必要があることが示唆された。

本研究で明らかになった精神疾患患者の身体合併症ケアを困難にさせる要因や課題、身体ケア・処置の方法等に関する内容は、専門雑誌の特集、総説として(2006年)3号にわたり連載発表した。研究の最終年度(2008年)には、これまでの研究の集大成として精神科における身体ケア技術に焦点を絞った書籍『これだけは知っておきたい「精神科の身体ケア技術」/医学書院』を編集・出版した。啓蒙活動としては、看護専門学会の『精神科身体合併症看護』の分科会講師や専門雑誌の特集記事を通して、本研究で明らかになった精神科身体合併症看護の現状や今後の課題について、精神科看護師に伝える活動を行った。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 18件)

1) 美濃由紀子：がんを併発した精神疾患患者の治療・看護の現状と課題。医学書院，精神看護，8(1)，pp18-37，2005年1月．査読有

2) 美濃由紀子，佐藤るみ子，高崎邦子，宮本真巳：医療観察法病棟におけるグループ・スーパービジョン導入の実態—触法精神障害者の事例検討を通じて 第1報—，第38回日本看護学会論文集—精神看護—，日本看護協会編：日本看護協会出版会，pp150-152，2007年12月．査読有

3) 高崎邦子，美濃由紀子，宮本真巳，佐藤恵子，小原陽子，田川理絵，佐藤るみ子：多

職種の参加による事例検討会を活用したスーパービジョンの実態と評価 一触法精神障害者の事例検討を通じて 第2報一, 第38回日本看護学会論文集一精神看護一, 日本看護協会編: 日本看護協会出版会, pp153-155, 2007年12月. 査読有

4) 美濃由紀子, 宮本真巳: 医療観察法における訪問看護の現状と課題一ケア効果とスタッフの抱える困難に焦点をあてて一. 医学書院, 精神看護, 11(3), pp60-63, 2008年5月. 査読無

5) 美濃由紀子, 岡田幸之, 菊池安希子, 佐野雅隆, 吉川和男: 指定通院医療機関における診療記録の量的・質的データ分析 一医療観察制度による専門的医療向上のためのモニタリング研究一. 日本精神科看護学会誌 (The Japanese Psychiatric Nursing Society), 51(3), 日本精神科看護技術協会編: 精神看護出版, pp475-479, 2008年12月. 査読有

6) 美濃由紀子, 牧野貴樹, 宮本真巳: 医療観察法における指定入院医療機関スタッフの意識調査 一開棟前の期待や危惧に基づいた開棟後アンケート調査より一. 日本精神科看護学会誌 (The Japanese Psychiatric Nursing Society), 51(3), 日本精神科看護技術協会編: 精神看護出版, pp490-494, 2008年12月. 査読有

7) 笠松理恵子, 美濃由紀子, 大迫充江, 佐藤るみ子, 宮本真巳: 医療観察法病棟におけるグループ・スーパービジョン機能に関する研究 一事例検討会3年目の実態報告とエンパワメント効果に影響を及ぼす要因一. 第39回日本看護学会論文集一精神看護一, 日本看護協会編: 日本看護協会出版会, pp164-166, 2009年1月. 査読有

8) 美濃由紀子: 身体ケア技術を自信を持って提供できる精神科を目指したい一精神科でよく起きる自傷・事故の処置法一. 医学書院, 精神看護, 9(3), pp12-13, 2006年5月. 査読無

9) 美濃由紀子: 「事故」編一転倒・転落時の対応と骨折・頭部外傷の処置を中心に一. 医学書院, 精神看護, 9(3), pp33-42, 2006年5月. 査読無

10) 美濃由紀子: わからない人が多いチューブ類の操作を確認「チューブ・カテーテル」編一「経鼻胃チューブ」「膀胱留置カテーテル」に焦点をあてて一. 医学書院, 精神看護, 9(4), pp12-22, 2006年7月. 査読無

11) 美濃由紀子: あなたが会おうであろう「治療や処置を拒否する患者さん」について. 医学書院, 精神看護, 9(4), pp32-35, 2006年7月. 査読無

12) 美濃由紀子: バイタルサインの見方一精神科だから注意したいポイントを押さえながら一. 医学書院, 精神看護, 9(5), pp38-47, 2006年9月. 査読無

13) 美濃由紀子: バイタルサイン測定は精神科ケアに直結しています一精神科で抜けがちな身体観察の基本を確認一. 医学書院, 精神看護, 9(5), pp48-50, 2006年9月. 査読無

14) 相馬厚, 美濃由紀子: 防ぐ・気づく・つなぐ! 身体合併症患者のケア「誌上カンファレンス あの時・あの場面をふり返る」一便秘・イレウスの事例, 誤嚥性肺炎の事例から一. 精神看護出版, 精神科看護, 33(10), pp32-41, 2006年10月. 査読無

15) 日下和代・小泉仁子・千葉由美・二宮彩子・清水清美・森田久美子・岡光基子・矢富有見子・乙丸晶世・美濃由紀子・松岡恵・宮本真巳: 看護実践能力育成に向けた看護技術チェックリストの検討一看護技術と問題解決能力の統合をめざした東京医科歯科大学の取り組み一. 医学書院, 看護教育, 47(10), pp884-891, 2006年10月. 査読無

16) 美濃由紀子: 「医療観察法」一看護の立場から何ができるか一鑑定入院・通院医療に焦点をあてて一. 医学書院, 精神看護, 11(3), pp16-19, 2008年5月. 査読無

17) 岡田幸之, 美濃由紀子: 医療観察法の鑑定入院で看護には何が求められているか. 医学書院, 精神看護, 11(3), pp24-36, 2008年5月. 査読無

18) 美濃由紀子, 宮本真巳: 司法精神看護を学べるチャンスはここにあります. 医学書院, 精神看護, 11(3), pp73-78, 2008年5月. 査読無

[学会発表] (計 15件)

1) 美濃由紀子・高濱圭子・日下和代・伊東美緒・小谷野康子・宮本真巳: 事例検討会の集団力動が事例提供者に及ぼす影響に関する研究一継続フォローアップのための方法論の検討一. 第26回日本看護科学学会学術集会, p388, 2006年12月(神戸). 査読有

2) 美濃由紀子, 佐藤るみ子, 高崎邦子, 宮

本真巳：医療観察法病棟におけるグループ・スーパービジョンの導入と実際―触法精神障害者の事例検討を通じて 第1報― 第38回 日本看護学会―精神看護, p89, 2007年7月(岩手). 査読有

3) 高崎邦子, 美濃由紀子, 宮本真巳, 佐藤恵子, 小原陽子, 田川理絵, 佐藤るみ子：多職種による事例検討会を活用したスーパービジョンの実際―触法精神障害者の事例検討を通じて 第2報― 第38回 日本看護学会―精神看護, p90, 2007年7月(岩手). 査読有

4) 美濃由紀子, 宮本真巳：指定入院医療機関スタッフが司法精神医療に抱く期待や懸念―開棟前アンケートによる意識調査より(1)― 第27回 日本看護科学学会学術集会, p483, 2007年12月(東京). 査読有

5) 美濃由紀子, 宮本真巳：指定入院医療機関の看護リーダー層スタッフが抱える困難さ―開棟前インタビューによる意識調査より(2)― 第27回 日本看護科学学会学術集会, p484, 2007年12月(東京). 査読有

6) 高濱圭子, 美濃由紀子, 米山奈奈子, 岡村典子, 江崎優, 関山友子, 良知雅美, 宮本真巳：事例検討会参加者の継続学習に関する研究―レビューの機能に焦点をあてて― 第27回 日本看護科学学会学術集会, p488, 2007年12月(東京). 査読有

7) 美濃由紀子, 岡田幸之, 菊池安希子, 牧野貴樹, 吉川和男：医療観察法制度の通院医療における精神保健福祉法入院の併用実態と課題―指定通院医療機関のモニタリング調査から― 第4回 日本司法精神医学大会, p45, 2008年5月(福岡). 査読有

8) 美濃由紀子, 宮本真巳, 吉川和男：指定通院医療機関における触法精神障害者の治療・ケアの現状と課題―多職種チームスタッフの抱える困難に焦点をあてて― 第4回 日本司法精神医学大会, p23, 2008年5月(福岡). 査読有

9) 菊池安希子, 岩崎さやか, 水野由紀子, 美濃由紀子, 朝波千尋, 樽矢敏広, 安藤久美子, 平林直次, 吉川和男：武蔵病院医療観察法病棟における一般的他害行為防止プログラムの試行 第4回 日本司法精神医学大会, p39, 2008年5月(福岡). 査読有

10) 笠松理恵子, 美濃由紀子, 大迫充江, 佐藤るみ子, 宮本真巳：医療観察法病棟におけるグループ・スーパービジョン機能に関する

研究―事例検討会3年目の実態報告とエンパワメント効果に影響を及ぼす要因― 第39回 日本看護学会―精神看護, p105, 2008年8月(神戸). 査読有

11) 美濃由紀子, 岡田幸之, 菊池安希子, 佐野雅隆, 吉川和男：指定通院医療機関における診療記録の量的・質的データ分析―医療観察制度による専門的医療向上のためのモニタリング研究― 日本精神科看護学会 第15回 専門学会Ⅱ, p478, 2008年11月(佐賀). 査読有

12) 美濃由紀子, 牧野貴樹, 宮本真巳：医療観察法における指定入院医療機関スタッフの意識調査―開棟前の期待や危惧に基づいた開棟後アンケート調査より― 日本精神科看護学会 第15回 専門学会Ⅱ, p488, 2008年11月(佐賀). 査読有

13) 美濃由紀子, 宮本真巳：指定通院医療機関における訪問看護の効果と今後の課題―医療観察法における触法精神障害者の社会復帰支援― 第28回 日本看護科学学会学術集会, p435, 2008年12月(福岡). 査読有

14) 美濃由紀子, 宮本真巳：指定入院医療機関の看護師によるC&R(CVPPP)の実施状況と行動制限の実態 第28回 日本看護科学学会学術集会, p517, 2008年12月(福岡). 査読有

15) 美濃由紀子, 高濱圭子, 岡村典子, 米山奈奈子, 堀越涼子, 永岡薫, 内藤みか, 宮本真巳：事例検討会における事例提供者の気付きに関する研究―集団力動の中での視野の転換・拡大に焦点をあてて― 第28回 日本看護科学学会学術集会, p351, 2008年12月(福岡). 査読有

〔図書〕(計 16件)

1) 美濃由紀子 (共著書)：心の健康と身体の健康(第I部 第1章 第3節). 『改訂 精神看護学』宮本真巳編著, pp14-18, 中央法規出版, 2006年3月

2) 美濃由紀子 (共著書)：コンサルテーション・リエゾン精神看護(第IV部 第5章 第1~4節). 『改訂 精神看護学』宮本真巳編著, pp196-210, 中央法規出版, 2006年3月

3) 美濃由紀子 (編著書)：精神科「ならでは」「だからこそ」の身体ケア. これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』. pp6-10, 医学書院, 2008年5月

4) 美濃由紀子 (編著書)：事故―転倒・転落

時の対応を中心にー(第Ⅰ部ー2)。これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』。pp26-37, 医学書院, 2008年5月

5) 美濃由紀子(編著書:チューブ・カテーテルー「経鼻胃チューブ」「膀胱留置カテーテル」を中心にー(第Ⅱ部ー1)。これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』。pp52-65, 医学書院, 2008年5月

6) 美濃由紀子(編著書):身体処置を拒否する患者のケアーインフォームドコンセントをめぐる看護師の役割ー。これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』。pp80-85, 医学書院, 2008年5月

7) 美濃由紀子(編著書):バイタルサインの見方(第Ⅲ部ー1)。これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』。pp88-101, 医学書院, 2008年5月

8) 美濃由紀子(編著書):バイタルサイン測定の意味。これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』。pp119-122, 医学書院, 2008年5月

9) 美濃由紀子(編著書):誤嚥性肺炎(第Ⅳ部ー2)。これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』。pp141-162, 医学書院, 2008年5月

10) 美濃由紀子(共著書):第1章 司法精神医療と医療観察法の理解「医療観察法の基本的性格」。実践 精神科看護テキスト 第17巻『司法精神看護』日本精神科看護技術協会監修(編集委員:天賀谷隆, 遠藤淑美, 末安民生, 宮本真巳, 吉浜文洋)。pp14-20, 精神看護出版, 2008年8月

11) 美濃由紀子(共著書):第5章 気になる行動への対処方法 1. 不安・緊張状態。部下をもつ人の「心の健康知識」下巻(著者:吉川武彦, 高橋照子, 美濃由紀子)。Pp17-23, JTEX 日本技能教育開発センター, 2009年5月

12) 美濃由紀子(共著書):第5章 気になる行動への対処方法 2. 抑うつ状態やうつ病。部下をもつ人の「心の健康知識」下巻(著者:吉川武彦, 高橋照子, 美濃由紀子)。Pp24-32, JTEX 日本技能教育開発センター, 2009年5月

13) 吉川武彦, 美濃由紀子(共著書:第5章 気になる行動への対処方法 4. 拒否・拒絶状態。部下をもつ人の「心の健康知識」下巻(著者:吉川武彦, 高橋照子, 美濃由紀子)。

Pp39-45, JTEX 日本技能教育開発センター, 2009年5月

14) 美濃由紀子(共著書):第5章 気になる行動への対処方法 7. 人格障害(パーソナリティの機能障害)。部下をもつ人の「心の健康知識」下巻(著者:吉川武彦, 高橋照子, 美濃由紀子)。Pp51-58, JTEX 日本技能教育開発センター, 2009年5月

15) 美濃由紀子(共著書):第7章 管理・監督者の健康管理 1. 身体的・精神的健康管理。部下をもつ人の「心の健康知識」下巻(著者:吉川武彦, 高橋照子, 美濃由紀子)。Pp79-84, JTEX 日本技能教育開発センター, 2009年5月

16) 美濃由紀子(共著書):第4章 医療観察法と看護の現状と課題 I. 医療観察法における地域処遇の課題と今後への期待。精神科看護白書 2006→2009。日本精神科看護技術協会監修。Pp111-118, 精神看護出版, 2009年5月

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

美濃 由紀子(MINO YUKIKO)

国立精神・神経センター精神保健研究所・司法医学研究部・研究員

研究者番号:50318002